安　全　デ　ー　タ　シ　ー　ト

整理番号 TNI 00474
作成日 2005/12/1
最終更新日 2015/1/1

1. 化学物質及び会社情報

会　　社　：大陽日酸株式会社
住　　所　：〒142-8558　東京都品川区小山 1-3-26 東洋 Bldg.
担当部門　：SI 事業部　　担 当 者 ：平　　博 司
電話番号　：03-5788-8695　　FAX 番号 ：03-5788-8710
緊急連絡先：SI 事業部（電話番号 03-5788-8550）
メールアドレス： Isotope.TNS@tn-sanso.co.jp
ホームページアドレス：http://stableisotope.tn-sanso.co.jp

化学物質　　酢酸ビニル（モノマー）

製品名　　ビニル酢酸-$^{13}C_2$

＊ 安定同位元素で標識された化合物は、標識核種及び位置により製品名称が異なりますが、安全性データは非標識化合物と同一とみなします。従って、特に指定しない限り本シートに記載されているデータは、非標識化合物のデータを採用しています。

---

2. 危険有害性の要約

ＧＨＳ分類

物理化学的危険性：	火薬類	分類対象外
	可燃性・引火性ガス	分類対象外
	可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性・酸化性ガス	分類対象外
	高圧ガス	分類対象外
	引火性液体	区分 2
	可燃性固体	分類対象外
	自己反応性化学品	分類できない
	自然発火性液体	区分外
	自然発火性固体	分類対象外
	自己発熱性化学品	分類できない

	水反応可燃性化学品	分類対象外
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類対象外
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類できない
健康に対する有害性：	急性毒性（経口）	区分 5
	急性毒性（経皮）	区分 5
	急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
	急性毒性（吸入：蒸気）	区分 4
	急性毒性（吸入：粉じん）	分類対象外
	急性毒性（吸入： ミスト）	分類できない
	皮膚腐食性・刺激性	区分 3
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分 2A
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	区分 1
	生殖細胞変異原性	区分 2
	発がん性	区分 2
	生殖毒性	区分外
	特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）	区分 3(気道刺激性)
	特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）	区分 2(呼吸器)
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性：	水生環境急性有害性	区分 2
	水生環境慢性有害性	区分外

ラベル要素

絵表示又はシンボル：

注意喚起語： 危険

危険有害性情報： 引火性の高い液体及び蒸気

飲み込むと有害のおそれ（経口）

皮膚に接触すると有害のおそれ（経皮）

吸入すると有害(蒸気)
軽度の皮膚刺激
強い眼刺激
アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ
遺伝性疾患のおそれの疑い
発がんのおそれの疑い
呼吸器への刺激のおそれ
長期又は反復ばく露による呼吸器の障害のおそれ
水生生物に毒性

注意書き：

【安全対策】
使用前に取扱説明書を入手すること。
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
熱、火花、裸火のような着火源から遠ざけること。－禁煙。
静電気的に敏感な物質を積みなおす場合は、容器及び受器を接地、結合すること。
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器等を使用すること。静電気放電に対する予防措置を講ずること。
火災を発生しない工具を使用すること。
必要に応じて個人用保護具や換気装置を使用し、ばく露を避けること。
換気が十分でない場合には、適切な呼吸用保護具を着用すること。
適切な保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
容器を密閉しておくこと。
環境への放出を避けること。

【応急措置】
吸入した場合、被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
吸入した場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。
皮膚又は毛に付着した場合、直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぎ又は取り除くこと。皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
皮膚に付着した場合、皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。

気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
取り扱い後はよく手を洗うこと。
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼に入った場合、眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。
ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。漏出物は回収すること。

【保管】
容器を密閉して換気の良い冷所で保管すること。
施錠して保管すること。

【廃棄】
内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務を委託すること。

---

3. 組成・成分情報

単一製品/混合物の区分‥	単一の化合物
化学名 ‥‥‥‥‥‥‥‥	酢酸ビニル
含有量 ‥‥‥‥‥‥‥‥	９９．０%以上（ＧＣ）
化学式又は構造式 ‥‥‥	$CH_3COOCH:CH_2$
官報公示整理番号 ‥‥‥	化審法：（２）－７２８
ＣＡＳ番号 ‥‥‥‥‥‥	１０８－０５－４
国連分類番号 ‥‥‥‥‥	３（引火性液体　Ｐ．Ｇ　２）
国連番号 ‥‥‥‥‥‥‥	１３０１
分子量 ‥‥‥‥‥‥‥‥	８６．０９
日化辞番号 ‥‥‥‥‥‥	Ｊ２．８６０Ｆ
ＲＴＥＣＳ番号 ‥‥‥‥	ＡＫ０８７５０００

---

4. 応急措置

目に入った場合 ‥‥‥‥	清浄な流水で、最低１５分間以上洗眼し、直ちに眼科医の手当を受ける。
皮膚に付着した場合 ‥‥	汚染した衣類等は速やかに脱ぎ捨て、触れた部分を水又は微温湯を流しながら洗浄した後、石鹸でよく洗い落とし、医師の手当を受ける。

吸入した場合 ‥‥‥‥‥ 被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移し、安静、保温に努め、速やかに医師の手当を受ける。呼吸が停止している場合には人口呼吸を行い、呼吸困難な場合には酸素吸入を行い、嘔吐がある場合は頭を横向きにする。

飲み込んだ場合 ‥‥‥‥ 水でよく口の中を洗浄し、直ちに医師の手当てを受ける。

---

5. 火災時の措置

消火剤 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥ アルコフォーム、粉末、二酸化炭素

消火方法 ‥‥‥‥‥‥‥‥ 初期の火災には、粉末、炭酸ガス、乾燥砂などを用いる。

消火活動上の注意事項 ‥ 関係者以外は安全な場所に退去させ、消火活動は風上から行い、有毒なガスの吸入を避ける。状況に応じて呼吸保護具を着用する。

---

6. 漏出時の措置

処理者に対する注意 ‥‥ 風下の人を退避させ、漏洩した場所の周辺にロープを張るなどして、関係者以外の立ち入りを禁止する。付近の着火源となるものを速やかに取り除き、消火用器材を準備する。作業の際には保護具を着用し、風上から作業すること。

環境影響に対する注意 ‥ 流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。大量の水で稀釈した場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないよう注意する。

流出物に対する注意 ‥‥ 乾燥砂、土、おがくず、ウエス等に吸収させて密閉できる空容器に回収する。残りは大量の水で洗い流す。

---

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い ‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 開封時、容器に内圧がかかっていることがあるので注意する。（火気厳禁。）取扱いは換気のよい場所で行い、漏れ、あふれ、飛散しないようにし、みだりに蒸気を発生させない。皮膚に触れる、吸入する等がないよう注意し、取扱い場所の近くに洗眼、洗浄を行うための設備を設置する。

保管 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 遮光した気密容器に入れ、安定剤（ＨＱ、ジフェニルアミン）を加え、冷暗所に保存する。

---

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度 ‥‥‥‥‥‥‥‥ （基準濃度）１０ｐｐｍ

許容濃度 ‥‥‥‥‥‥‥‥ 日本産業衛生学会：データなし。

ＡＣＧＩＨ　ＴＬＶ－ＴＷＡ（１９８９）:

１０ｐｐｍ（３５ｍｇ／ｍ３）
ＡＣＧＩＨ　ＴＬＶ－ＳＴＥＬ（１９８９）:
２０ｐｐｍ（７０ｍｇ／ｍ３）
ＯＳＨＡ　ＰＥＬ　８Ｈ－ＴＷＡ（１９８９）:
１０ｐｐｍ（３０ｍｇ／ｍ３）
ＯＳＨＡ　ＳＴＥＬ（１９８９）:
２０ｐｐｍ（６０ｍｇ／ｍ３）

保護具 ・・・・・・・・・・・・・・・ 状況に応じ、有機ガス用防毒マスク、送気マスク、空気呼吸器、保護眼鏡、保護手袋、保護長靴等を使用する。

設備対策 ・・・・・・・・・・・・・ 極力、装置の密閉化をはかり、暴露のおそれがある場合は局所排気装置を設置する。取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い、洗眼設備を設けその位置を明瞭に表示する。

---

9. 物理及び化学的性質

外観等 ・・・・・・・・・・・・・・・ 無色透明液体、刺激性あり。
沸点 ・・・・・・・・・・・・・・・・ ７２℃
融点 ・・・・・・・・・・・・・・・・ －９２．８℃
比重 ・・・・・・・・・・・・・・・・ ０．９３
溶解度 ・・・・・・・・・・・・・・・ 一般有機溶媒に易溶。水に微溶。
蒸気圧 ・・・・・・・・・・・・・・・ １００ｍｍＨｇ（２２℃）
蒸気密度 ・・・・・・・・・・・・・ ３．００ｇ／ｌ
引火点 ・・・・・・・・・・・・・・・ －８℃
発火点 ・・・・・・・・・・・・・・・ ４２７℃
爆発限界 ・・・・・・・・・・・・・ 下限：２．６ ｖｏｌ％　上限：１３．４ ｖｏｌ％
その他 ・・・・・・・・・・・・・・・ 光に当たると重合する。

---

10. 安定性及び反応性

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 過酸化物、アゾ化合物、光、その他により容易に重合する。（重合禁止剤含有。）酸、アルカリの存在下で加水分解によりアセトアルデヒドと酢酸に分解する。強酸化剤と激しく反応する。

---

11. 有害性情報

急性毒性 ・・・・・・・・・・・・・ ＯＲＬ－ＲＡＴ－ＬＤ５０　２９２０ｍｇ／ｋｇ
ＩＨＬ－ＲＡＴ－ＬＣＬ０　４０００ｐｐｍ／４ｈ

刺激性 ・・・・・・・・・・・・・・・ 蒸気は呼吸器や眼を刺激する。高濃度の蒸気は頭痛、めまいを起こす。

がん原性 ・・・・・・・・・・・・・ 酢酸ビニルを飲料水に添加してラットに経口投与した試験では、高濃度投与群で接餌量および体重増加率等の減少が見られたが、投与に起因する発癌性の反応は認められなかった。ラットおよびマウスを用いた長期吸入毒性試験で５０ｐｐｍの低濃度では異常は認められなかったが、高濃度（６００ｐｐｍ）では、雌ラットの鼻腔と喉頭および雄マウスの肺に腫瘍が発生した。このことは高濃度蒸気に反復暴露されると、鼻の気道上部呼吸器を結ぶ組織に障害を起こす恐れがあることを示す。プラント作業者の疫学的調査によると、酢酸ビニル暴露とヒト発がん性もしくは呼吸器異常との関連性は認められていない。

変異原性 ・・・・・・・・・・・・・ 細菌を用いたｉｎ ｖｉｔｏｒｏにおける酢酸ビニルの試験で変異原性は認められなかったが、染色体異常、小核の増加、姉妹染色体分体交換等が報告されている。

催奇形性 ・・・・・・・・・・・・・ ラットにおける吸入および経口いずれの試験においても、催奇形性は見出されなかった。代謝、排泄、分布、酸ビニルの主要代謝系統は、エステルの加水分解による酢酸とアセトアルデヒドの生成であると考えられている。酢酸ビニルの排泄の主なルートは呼気であり、大部分は２４時間以内に排泄される。

---

12. 環境影響情報

分解性 ・・・・・・・・・・・・・・ 通産省の既存化学物質点検等において生分解性良好が確認されている。

蓄積性 ・・・・・・・・・・・・・・ 水／オクタノール分配係数　Ｌｏｇ Ｐｏｗ＝０．７３

魚毒性 ・・・・・・・・・・・・・・

コイ	ＬＣ５０（４８Ｈ）	２０．３ ｍｇ／ｍ３
ミジンコ	ＬＣ５０（２４Ｈ）	３３０ｍｇ／ｌ
	ＥＣ５０（２４Ｈ）	５２ｍｇ／ｌ

---

13. 廃棄上の注意

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 燃焼法を使用する。可燃性溶媒で希釈して、少量ずつ焼却炉で焼却する。

---

14. 輸送上の注意

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実に行い、消防法などの法令に定めるところに従う。

---

15. 適用法令

ＰＲＴＲ法 ・・・・・・・・・・・・	第１種指定化学物質
労働安全衛生法 ・・・・・・・・	名称等を通知すべき有害物
	健康障害防止指針公表物質
	危険物・引火性の物
消防法 ・・・・・・・・・・・・・・・	第４類引火性液体、第一石油類非水溶性液体
大気汚染防止法 ・・・・・・・・	揮発性有機化合物 法第２条第４項
	有害大気汚染物質
海洋汚染防止法 ・・・・・・・・	危険物
	有害液体物質（Ｃ類物質）
バーゼル法 ・・・・・・・・・・・・	廃棄物の有害成分・法第２条第１項第１号イに規定するもの
航空法 ・・・・・・・・・・・・・・・	施行規則第１９４条危険物告示別表第１引火性液体
船舶安全法 ・・・・・・・・・・・・	危規則第２、３条危険物告示別表第１引火性液体類
港則法 ・・・・・・・・・・・・・・・	危険物・引火性液体類
外為法 ・・・・・・・・・・・・・・・	輸出貿易管理令別表第ニ
	輸入貿易管理令第４条第１項第２号

---

16. その他の情報

【参考文献】

化学品法規制検索システム	日本ケミカルデータベース
GHS 仕様モデル SDS	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター

＊ この安全データシートは、各種の文献などに基づいて作成していますが、必ずしもすべての情報を網羅しているものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。また、含有量、物理及び化学的性質、危険有害性などの記載内容は、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。なお、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであり、特殊な取扱いをする場合には、その用途・用法に応じた安全対策を実施して下さい。